

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

宮城県の積雪期登山についての今年度のとりくみ

1月13、14の両日、「高雪研」で宮城県を訪れた。福島県同様多くの先生方が熱心に取り組んでおられる姿が印象的だった。宮城県では県をあげての取り組みとして、県教委の指導主事もお見えになって、一緒に研修されていた。その宮城県において、栃木の事故後の積雪期登山をめぐる県の取り組みを宮城県高体連登山専門部の山崎順平先生がまとめてくださり、メールをくださった。各地区の情報共有は価値あることと思う。お許しを得たので紹介したい。

栃木県での事故直後に偶然常任委員会があつて比較的速やかに検討に入った本県（宮城県）では、4月には三役が中心となり県教育庁スポーツ健康課の依頼に応える形で春山登山のあり方についての文案を作つて、県通知が出され、登山専門部名義での生徒保護者宛の文書も作りしました。そのため春山登山が特に混乱無く開始できました。

その保護者宛の文書には、冬山については基準やマニュアル・顧問研修などの詳細を今年度時間をかけて検討すると謳っておりましたので、9月以降は、いよいよ今シーズンの冬山の検討に入り、10月の新人大会を挟んで、常任委員が冬山実施基準作成やマニュアル作成・顧問研修準備の3つのチームとなり、分担して検討を進めました。

顧問同士が相互に計画書を審査する体制を提起し、太田先生を中心に8月頃からその体制の構築が進みました。

12月1日にスポーツ庁から有識者会議の答申があり、審査会を設けることが要請され、それに沿った県の通知が作られ、急きょ12月中旬に審査会を行うこととなりました。後追いで審査会の設置要項を作成し、審査会で実施とともに通知しました。今年度は審査会にかける計画の範囲について混乱がありましたが、ほとんどの学校が3月までの計画の概要を用意し、現在計画を下に山行が実施に移しつつあります。

現在は2月の審査会で審査される3～5月の計画を委員長が集約をしているところです。6月の県総体（インターハイ予選）のルートの詳細が常任委員会で決定を見ていないために、5月までの計画を提出するという一方で、また混乱が生じるような雲行きです。

冬山訓練を行えるリーダーの資格という点については、対策が十分ではありません。有資格者は本県ではクライミングの指導者しかおりません。したがって、研修に参加した者というレベルの者しかおりません。今後先生がおっしゃるように意欲的な若手顧問に経験を積んでもらい、資格を取得することに補助を出すなどしていくべきかと思っておりますが、まだ宮城県高体連登山専門部としての方針は定かではありません。その点について長野県の実態をお教え頂ければと思います。

「高雪研」 I N福島 生徒の感想より

12月25日～26日かけておこなった高雪研 I N福島における生徒の感想を福島県の横山先生からいただいた（山岳部通信）ので、その一部をご紹介します。

今回の講話で印象に残り大切だと思ったことが三つあります。一つ目は山岳では事前の準備が本当に大切だということです。去年の3月27日に栃木県で起きた雪崩の事故でも事前の準備が不十分だったこと、見通しが甘かったことなどが大きく影響しています。改めて自然の怖さ、事前準備の大切さを心に刻むことができました。二つ目は雪崩が起きる原因についてです。雪崩が起きる原因として天候や風が関係していることは知っていましたが、雪の形で起きやすかったり、またその規模の大きさも変化し、さらに雪崩の種類によりスピードも違ってくることを学ぶことができました。風についても大きさだけではなく風の吹く方向にも注意することが大切というのも分かりました。これらの気象、外的要因地形によって雪崩が起きるということは完全になくすことはできないと思いますが、雪崩を事前に防ぐことは出来ると思いました。そして三つ目です。それらの被害を防ぐためにはプローブやシャベルなど たくさんの道具があることを知りました。本当に貴重な経験でした。(男子)

栃木で事故が起こったとき自分は中学生でした。高校に入学し山岳部に入部したことで栃木での事故はさらに身近なものとなりました。今回の講義でこの事故は多く話題となりましたが、知らなかったことが多いと感じました。同世代の同じ部活の人が亡くなったこの事故から、自分は学ばなければならないと思いました。雪崩のニュースは以前から度々耳にしていたのですが、今回の講義では予想をはるかに超える件数が身近な場所で起こっていて目をそらせないことだと思いました。雪崩は小さなものに対しても人の命を簡単に奪ってしまいます。これから雪山に登る機会もまだまだあるので自分の命をしっかりと自分で守れるよう、雪崩のメカニズムから学ぶことは大切だと思いました。今までは大人の判断にただ従って行動していただけでしたが、もしもの時子供だけになったとしたらどう行動したらよいのか見当もつかないので、しっかりと基礎知識を学んで事故に巻き込まれることを事前に防ぎたい。そして雪山ならではの魅力を安全に見つけて行きたい。(女子)

今回の講演は栃木県の現在や、僕たちが受けているような技術講習会で起きてしまった事故について、基礎からその事故の経緯を知ることができました。まず栃木の事故対策が完璧でありながらその防止策を、慣れと怠惰によって防ぐことができなかったということが反省であったので、この反省を生かして事故が起こらないように、もし万が一にも起こった場合にはその被害を最小限に留めたいと思います。僕たち山岳部も事故の1~2週間前に県内の雪山に登っていました。僕自身はインフルエンザからの病み上がりで行くことはできませんでしたが、条件は事故時の状況に酷似していたため、一歩間違えていたら同じことがわが校で起こっていたかもしれませんでした。最後の講話は僕達の部活にとってもなく響く講話で、多数のことを学びました。(男子)

雪崩に巻き込まれてしまった時にとるべき対応やコンパニオンレスキューの際に用いる道具など、ためになる内容を多く学ぶことができて良かったです。また雪崩の種類や起こるメカニズムなども学んで、自分でも自分の住む地域の山で起こった雪崩を調べてその原因などをまとめてみたいと思いました。(女子)

(運営から：抜粋) 主催者として今回の大会で意識していたことは「大会を終えて終わりにしない」ことです。今回は全員の生徒から感想を書いてもらい、一覧にして顧問の先生方に配付することにしました。生徒のみんなには話を聞くだけで終わらせず、振り返り、そして今後の登山に活かして欲しいと思います。(須賀川桐陽高校横山博央先生)

今年の乗鞍善五郎の滝高校雪研修

1月4日、恒例のアイスクライミングに行った。場所は乗鞍善五郎の滝。昨年は暖冬傾向で氷の発達が悪かったが、今年は結構いい氷であった。アイスクライミングの時は、山岳会の仲間が頼りになる。今年もOB二人の協力を仰いで実現した。感謝、感謝。

僕がリードで右の小滝にルートを開く。最初足場が安定せず、なかなかスクリューを打つことができずに、ランアウトしてちょっとビビったが、何とか上まで抜けることができた。そこから本流にも登り、ロープを2本垂らした。ゲレンデのでき上りである。

去年の経験が生きているのか、2年生は最初からスムーズだ。

